

北海道議会議員
畠山みのり
 道政だより



発行：畠山みのり道政事務所
 札幌市南区澄川4条1丁目港ビル1F
 TEL：011-813-7733
 FAX：011-813-7778
 URL
<http://minori-hatakeyama.jp>
 facebook
<https://www.facebook.com/hatakeyama.minori>

この通信の配布については、郵送・全戸配布・街頭配布等で行っています。

多様な生き方への
 理解を広げるために
 道がすべきこと



平成28年第2回定例会

北海道議会では6月21日から7月8日まで、平成28年第2回定例会が開かれ、今回畠山みのりは一般質問に立ちました。昨年、道議会議員になって初めての議会にて、本会議場で質した時に比べると、少し落ち着いていたように思います。

知事に対し、「男女平等推進について」「LGBT支援対策について」「情報セキュリティに対する取り組みについて」と、大きく分けて3つの質問をいたしました。LGBTについては、定例会前に同僚議員と大阪市淀川区へ調査（※活動報告③参照）に出かけ、勉強してきたことを参考に、北海道での支援について質しました。

LGBTとは、自分が思う性別と、身体の形、そして好きになる相手の性別、これらの幾通りかの組み合わせで、少数派となるのが性的マイノリティー、LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字）といわれます。ある調査によると、左利きの人と同じくらしい割合で存在し、これを北海道

LGBTへの理解を広げる
 —すべての人が自分らしく暮らせる社会—

の人口で換算すると、約42万人になります。今までの存在についてしっかりと認識、理解されてこなかったために、自分らしく生きることが困難な状況にある人がとてもたくさんいると言えます。

道は、人権教育や啓発活動に取り組み、まずはその理解を深めるために、教育委員会や道警察を含めた道職員に対する研修を今年度から行うとの考えを示しました。

LGBTは男女平等推進のように、そこだけ切り取って考えるのではなく、社会のあらゆる場面での関わりがあり、まわりの正しい知識や理解が必要とされるため、何らかの支援、取り組みが必要ではないかと考えます。この北海道ですべての人が自分らしく暮らしていけるように、障がいのある人や高齢者、一人暮らしなど多様化する道民の暮らしの中のLGBT支援について、今後も考えていきたいと思っております。



活動報告

3 大阪市淀川区

LGBTは人権問題です。ですが、これまであまり正しい理解がされてこなかったために、いじめにあったり、自己否定におちいったり、それが原因となつて自殺をする人がいるというのを知った榎区長が、区民の命を守るのには行政の役割ということ、平成25年に全国に先駆けて「LGBT支援宣言」をしました。

淀川区が行っていることは、まずは正しい知識と理解ということ、職員全員がLGBTに関する研修を受けています。研修を受けると、職員の名札にLGBTの社会運動の象徴であるレインボーが入ります。庁舎内のトイレの表示も男・女ではなく、「どなたでもご利用できます」となっており、これは職員の発案のこと。

さらにLGBTの方のための



子ども向け啓発ポスター

説明をいただいた担当者をはじめ、職員は皆さん生き生きと働いているようにお見受けしました。

コミュニケーションスペースの提供や、専用の電話相談も行っています。北海道では既存の人権相談窓口、女性相談窓口などで対応をしているとのことでしたが、やはり当事者にとって利用しやすいものでなければなりませんし、相談窓口の存在も広く知らしめる必要があります。



だれでもトイレ



6月20日(月)

少子・高齢社会対策特別委員会
 保育士等の配置について、常に最善の対策をとるよう求めた



5月31日(火)

定山溪開湯150周年記念祝賀会
 修行僧、美泉定山が開湯した定山溪温泉の節目の年を祝う



4月20日(水)

北海道新幹線試乗会
 新函館北斗駅から新青森駅まで約1時間の旅



7月30日(土)

第34回石山夏まつり
 吹奏楽部のオープニングから花火大会まで、充実のプログラム



6月19日(日)

南消防団消防総訓練大会
 消防団は地域に密着し、住民の安全と安心を守っています



4月24日(日)

南区少年軟式野球春期大会開会式
 真駒内五輪球場で15チームが参加

畠山みのりの活動ひとコマ

活動報告

5月から6月にかけて、会派の同僚議員とともに調査活動をしました。

斜里町立知床ウトロ学校



全校生徒と一緒に給食

全校生徒と一緒に給食
互いに協力し合うという体制に自然になつていったという事です。生徒と教職員の距離が近い雰囲気です。学校全体で生徒を見ていくという印象が強く残りました。

中標津町立計根別学園とともに、この4月に初めての入学式が行われた義務教育学校です。平成26年度から小中一貫教育の推進をすすめており、元々地域の方にはウトロ小中学校としてなじみの深いものであったようです。道は、あくまでも当

伺った日は、ちょうど1年生から9年生まで全校生徒が初めて一緒に給食を食べる日で、高学年も低学年も先生も含めて交流を楽しんでいました。

教職員の方々は、中学校の教員が小学校低学年の授業を受け持つ

2 百年記念施設等

来年は「北海道」という名称が生まれて150年を迎えますが、100年を記念して建てられた百年記念塔や開拓の村、そして昨年リニューアルオープンした話題となった北海道博物館を改めて調査しました。



リニューアルされた北海道博物館。マンモスゾウの前で



所々に剥がれ落ちるサビ

くで見ると、所々サビの粉が落ちるほどの状態でした。長い間、ランドマークとしてなじみの深い塔を、今後どうしていくのか様々な課題があり、これからの論議が必要です。

開拓の村は、指定管理者である北海道歴史文化財団の学芸員の方から説明を受けましたが、改めて、こういった施設の存在意義と北海道の財産を今後も守っていかなければならない



百年記念塔

と感じました。北海道博物館は、昨年4月にリニューアルされ、その開館記念特別展であるアイヌの有力者たちをモチーフに描いた「夷酋列像」で話題を呼びました。開館1周年で入館者数も15万人を超え、北海道の地形から縄文文化、その後のアイヌ文化から現代に至るまで、北海道の悠久の歴史をとて丁寧な工夫を凝らして展示がなされています。北海道は本州とくらべると歴史が浅いと言われるがちですが、北海道には北や南の大陸と融合した独自の文化が存在します。北海道に暮らす者として、深く知っておかなければならないこと、もっと多くの人に知っていただきたいと思いました。

待機児童の解消に向けて



5月11日の少子・高齢社会対策特別委員会では、道が説明した「待機児童解消に向けた保育所等の職員配置の特例」について、質疑を行いました。国は依然として解消されない待機児童問題の対策として、需要が高まる保育士の確保に対し、小学校教員や養護教諭、保育士の資格を持たない者(知事の認定あり)の配置を認める特例を設け、道はそれに向けて準備を始めています。保育士不足の解消に最も有効で抜本的な施策は、保育士の賃金や労働条件を大幅に改善すること、保育士配置基準などの「最低基準」を引き上げる

分の間の対策であり、保育の質の低下をまねくことのないよう取り組むとのことでしたが、どうしてもその場しのぎのものという感じがぬぐえません。

この委員会終了後、傍聴にいらしていた保育士団体の方に声をかけられ、後日、保育士の方々の懇談につながりました。やはり直接、現場の方の声を聴けたことは、今後の議論の後ろ盾になります。

6月20日には、「保育所等における職員配置基準の特例における意見等」について質疑を行いました。国が定めた職員配置の特例について、道が行った市町村や保育関係団体への調査、パブリックコメントで頂いた意見の中には、「保育の質の低下」や「事故対応の不安」という声も上がっていますが、待機児童ゼロを目指す道としてはこの対策を進める方針です。子どもの命をあずける大切な保育所や認定こども園において、特に、直接子どもと接する保育士等の職員の配置は、子どもの立場での常に最善の対策をとっていただ

続き会派として代表格質問や、予算特別委員会でも職員の配置基準についての北海道としての考えを質し、保育士等職員の処遇や、働く環境の改善、また潜在保育士の発掘など保育の担い手確保に取り組み、待機児童の解消を図るよう、付帯意見を提出しました。

結果として改正条例は可決されましたが、保育所などの職員配置特例が恒常化とならないように、これからも注視していきます。

